

平成30年8月1日

健康増進課 感染症対策担当

担当者 古賀、横尾

内線 1836、1851 直通 0952-25-7075

E-mail: kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp

腸管出血性大腸菌感染症の集団発生¹がありました

7月28日(土曜日)嬉野市内の医療機関から腸管出血性大腸菌(O157:オーイチゴーナナ)感染症患者の届出が杵藤保健福祉事務所にありました。

同事務所による調査の結果、届出患者の他に、届出患者が利用している嬉野市内の障害者施設の利用者1名の腸管出血性大腸菌の感染(2無症状病原体保有者)が確認されました。

現在、同事務所において感染経路等に関する調査を行っています。

腸管出血性大腸菌は、二次感染(感染者から他の人へ感染すること)や汚染された食品などで感染しますので、別紙を参考に感染予防を心がけてください。

なお、今回の情報提供は、広く腸管出血性大腸菌感染症に対する啓発と注意喚起を目的に行うものです。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条において求められているように、患者の人権尊重には御配慮、御理解いただきますようお願いいたします。

1 集団発生とは、同一感染経路で2例以上発生した場合をいいます。(同一世帯のみは含みません)

2 無症状病原体保有者とは、症状はないものの検便により感染が確認された方をいいます。

記

1 届出患者の状況

7月23日(月曜日)水様性下痢、腹痛、食欲不振あり。

7月24日(火曜日)水様性下痢、腹痛、食欲不振、発熱あり。

7月25日(水曜日)嬉野市内の医療機関を受診し、検便を実施。

7月28日(土曜日)に腸管出血性大腸菌(O157)の感染が判明。

患者は現在、症状軽快し、快復に向かっています。

2 接触者調査の状況

(1) 届出患者が利用している施設関係者

7月29日(日曜日)及び7月30日(月曜日)に、届出患者が利用している嬉野市内の障害者施設の利用者及び職員の検便を実施したところ、8月

1日（水曜日）に1名の腸管出血性大腸菌（O157）の感染（無症状病原体保有者）が確認されました。

現時点での患者の状況をまとめると次のとおりとなります。

患者	年齢	性別	届出年月日	備考
届出患者	43歳	女	平成30年7月29日	嬉野市在住 発症日：7月23日 症状：水様性下痢、 腹痛、食欲不振

この他に、無症状病原体保有者が1名（施設利用者の女性）が確認されています。

3 対応

- (1) 感染が確認された1名については、医療機関への受診を勧奨しました。
- (2) 患者等の接触者の健康調査及び検便を実施し、施設の消毒及び手洗い等の感染予防対策について指導しました。
- (3) 患者及び無症状病原体保有者が利用するトイレなどの施設の消毒及び手洗い等の感染拡大防止対策について指導しました。

4 県内の腸管出血性大腸菌感染症の発生件数（平成30年8月1日現在）

（単位：件、人）

年		0157	026	0111	0121	0103	その他	合計
24	件数	8	4	1	2	1	3	19
	感染者数	18	35	4	2	10	9	78
25	件数	15	0	1	4	1	4	25
	感染者数	52	0	3	9	1	4	69
26	件数	14	2	1	0	2	6	25
	感染者数	38	3	1	0	6	6	54
27	件数	15	4	1	0	0	5	25
	感染者数	27	14	2	0	0	6	49
28	件数	15	3	0	0	2	2	22
	感染者数	68	13	0	0	2	4	86
29	件数	13	3	0	0	0	1	17
	感染者数	38	6	0	0	0	1	45
30	件数	5	0	0	0	0	2	7
	感染者数	7	0	0	0	0	2	9

3 今回の事例含む。

4 0103の1件1名については0157も同時に検出されています。

《腸管出血性大腸菌感染症について》

腸管出血性大腸菌は、ベロ毒素という強い毒素を出し、腸管を傷つける病原菌です。代表的なものは、「0157」,「026」,「0111」などがあります。

腸管出血性大腸菌に感染すると、腹痛や水様性下痢、嘔吐、血便などの症状が出ます。特に、乳幼児や高齢者は、脱水症状を起こしやすく、溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重篤な症状を引き起こす可能性がありますので注意してください。

また、二次感染（感染者から他の人に感染すること）しやすい病原菌ですので、排泄後や調理前などは手洗いを十分にしましょう。

腸管出血性大腸菌は、食品等についた少量の菌で感染するため、食品等の取扱いには注意しましょう。

- ・手をよく洗う。
- ・まな板、包丁、布巾などの調理器具は台所用洗剤でよく洗い、定期的に熱湯をかけて消毒しましょう。
- ・食材、食品は、冷蔵庫で保管し、新鮮なうちに食べましょう。
- ・中心温度が75度、1分間以上を目安として十分加熱しましょう。
- ・特に、乳幼児や高齢者は、抵抗力が弱いので、生ものや生焼けの食品は食べないようにしましょう。

腸管出血性大腸菌は、動物から感染することもあるので、動物とのふれあいには注意しましょう

- ・動物とふれあった後は、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。
- ・動物の糞便には触れないようにしましょう。
- ・動物とは、キスなどの過剰なふれあいをしないようにしましょう。
- ・動物とふれあう場所では、飲食や喫煙などをしないようにしましょう。

気になる症状があったら、医師の診察を受けましょう。

- ・主な症状は、腹痛、水様性下痢、嘔吐、血便などです。
- ・適切な抗生物質等の治療で早期に回復する病気ですが、まれに溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重篤な症状が出ることがあります。
- ・くれぐれも自己判断で市販の下痢止めなどを飲まないでください。自己判断による服薬等で重症化をまねくことがあります。

下痢症状のある人や周囲に下痢症状のある人がいる場合は、石けんで念入りに手を洗いましょう。

溶血性尿毒症症候群（HUS）とは、赤血球の破壊を原因とする貧血や血小板の減少、急性腎不全を三主徴とする症候群です。